



アクトエッジ

NO. 96

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ

「50分の36」



「こぎつねコンとこだぬきボン」稽古風景
2015年初演、幼保を中心に巡演中。



「名古屋心中」稽古風景
1992年上演、創立25周年記念作品。
(写真は2012年、一部を再演した時のもの)

人形劇団むすび座が生まれたのは1967年、いわゆる高度経済成長期の後半のことです。創成期の記録を繰ってみると、「経済的に豊かになってきた一方で、文化的には貧困が続いている」というような嘆きが綴られている。このような想いが出発点だったであろう劇団は、創立者の予想を超えて今年50周年をむかえました。

さて私はといえば、創立された頃はまだ小学生。長野県の山の中で、のんびりと暮しておりました。その少年が、なぜ何十年も人形劇に関わるに至ったのか？おそらく多くの方の人生がそうであるように、偶然とひょんなきっかけの繰り返しの結果、としか言いようがありません。教員志望のはずが、いつの間にか職業として人形劇を目指していた。そのあたりの経緯は割愛するとして、それでは何故「むすび座」だったのか？それは、若者の熱い想いがあふれるような劇団であったから……なーんて言うのは思い出が作りだした美辞かもしれませんが、とにかく平均年齢が30にも届かない若い集団でした。未熟なことも多かったのですが、怖いの知らずというか、失うものがない強みと言いますか、気持ちだけは前を向き続けていたように記憶しています。

入団に際しては制作者を志望。古い方はご存知かと思いますが、映画「同胞」に感化されたクチです。しかし当時の劇団は、まずは全員が演技者を経験するシステム。個々がひとつの劇団として機能できるよう、多面的な育成を考えていたようです。私も例外では

柿内 尚生 (人形劇俳優・人形劇団むすび座代表)

なく、入団2カ月後には幼児作品のグループで作品づくりに関わっていました。それ以来、制作部門に関わることなくずっと人形を遣って舞台上に立ち続けているわけですから、判らないモノです人生は。

初年度の公演活動が始まると、ほぼ毎日が午前午後の移動2ステージ。なにしろ年間では300ステージを超えていたんですから、今から考えるとある意味羨ましい状況です。劇団に帰ると、夕方からはレッスン。声楽・和洋の楽器・舞踊・体技などの講師を招き、劇団挙げて学んでいました。週の半ばに一日だけ「早帰り」の日があり、夕食前に帰ってはいましたが、蓄積の少ない若年集団だから、疑問を持たずがむしゃらに学ぶしかなかったわけです。作品創造も試行錯誤の繰り返しで、初演は徹夜でむかえるのが当たり前。初年度「三匹のこぶた」は、ワラの家を作ったのが初演の日の朝。翌年、名演会館プロデュース「雪をんな」では、公演活動をしながら夜間の稽古。夜半を過ぎることもしばしばであったように覚えてます。

それから30数年。決して演技者に向いているとは思えない私が続けられているのは、「人形劇が好きだ」そんな極めて単純な、感覚的なコトでしかないような気がします。文化の普及であるとか新しい創造であるとか、それは結局好きでなくちゃ始まらないんじゃないでしょうか。むすび座50年のうち36年余りを過ごし、もう少し楽しませていただきます。

トピックス

「演劇をもっとメジャーなカルチャーに！」



「SPiN」俳優インタビューの様子

佐和 ぐりこ (フリーペーパー「SPiN」副編集長・デザイナー／オレンチスタ 主宰・プロデューサー)

「SPiN(Stage Press in Nagoya)」の創刊準備号を発刊したのが2016年6月。その後10月から1年間は月刊、今年の10月からは隔月発行しています。

発刊のきっかけは、演劇が取り上げられたメディアが名古屋にはほとんどない、という思いが前からあったからです。観る側が演劇を知らなくても興味を持てる切り口で紹介し、創る側も取り上げられることでモチベーションが上がるようなメディアがあったら、もっと名古屋の演劇シーンも盛り上がるのでは？そんな思いから「SPiN」は生まれました。

掲載内容は、俳優インタビュー、劇評、劇作家の短編小説、おすすめ公演紹介の4コーナー。巻頭を俳優インタビューにしたのは、小劇場演劇では作家や演出家をピックアップされがちですが、観客がまず興味を持つのは俳優と思ったから。小劇場という小さな舞台に立つ俳優でも、情熱や演技に取り組む姿

勢は映画やテレビの俳優と変わらないのだから、とドカンと有名人顔負けに写真を掲載しています。これまでインタビューしてきた俳優さんたちも、それぞれ職人肌だったりアーティスト気質だったり、その演技への取り組み方も人それぞれで、毎回刺激をもらっています。若手からベテランまで幅広い俳優を取り上げているので、「SPiNの巻頭に載るのが目標」と言ってもらえるような媒体になっていきたいですね。

現在SPiNは広告収入とサポート会員様の年会費で運営し、紙面作成や全国の劇場への発送、店舗への配架はすべて有志のメンバーで運営しています。紙面だけでなくもっと名古屋の演劇カルチャーを盛り上げる企画にもどんどん取り組みたい気持ちはあるものの、まだまだ追いついていないのが現状です。アクトエッジさんにも毎月配架していますので、ぜひお手に取ってみてくださいね。

アクテノン・シャワー

「アクテノン・フェスティバル」が行われました!

去る10月14日・15日の両日、アクテノン利用団体と名古屋音楽大学の出演者が練習の成果を発表しました。14日は、口笛やフラダンスを始めとする8団体の情熱が溢れるステージを大勢のお客様にご覧いただきました。15日は雨天中止となり、館内で出演者交流会を開催し、津軽三味線や阿波踊りなど9団体がお互いの練習成果を披露し、出演者間の親睦を深めました。両日ともに最後に行った全団体でのコラボレーション企画では会場が一体となって大いに盛り上がりました。ご参加された皆さま、本当にありがとうございました。来年も多数の参加をお待ちしております。



資料コーナー企画展Vol.1

劇団pH-7「アングラの香り漂う 濃密で官能的な舞台部屋」



菱田一雄氏による、名古屋を拠点に活動する老舗劇団「劇団pH-7(ペーハーセブン)」の舞台「石の舟」を中心とした写真や衣裳を多数展示し、旗揚げ公演から34年に渡る劇団の生き様をご紹介します。

この機会に、劇団pH-7の世界に浸ってみてはいかがでしょうか!

会場: 演劇練習館アクテノン 1階資料コーナー
開催日時: 平成29年11月28日(火)~平成30年1月13日(土)
9:30~19:00

休館日: 月曜日(祝日の場合はその翌平日) 年末年始(12/29~1/3)

※来館者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

アクテノン利用団体紹介

- ①発足年 ②団員数 ③主な上演作品/会場(上演年) ④連絡先

演劇 Theater BamBoo



2014年4月に名古屋市天白区にあったダンススタジオを拠点に旗揚げしたミュージカル劇団です。本公演は全て生演奏でオリジナル作品を上演しています。大きな劇場の閉館が相次ぐ中、しっかりと大地に根をはり、名古屋で本物のミュージカルを創りたい。ミュージカルの素晴らしさ、楽しさを一人でも多くの方に知っていただきたい。そのような強い想いで活動しています。春には文化小劇場での公演も行っております。団員募集は年に2回。5年目に突入するバンブーを宜しく願いたします。

- ①2014年 ②31名
- ③『ハッピーキッチン』/名古屋市芸術創造センター('16年) 『TINCT』/大府市勤労文化会館('15年) 『REVOLUTION』/アートピアホール('14年)
- ④竹内裕二 ☎090-1826-2069
HP: <https://theaterbamboo.web.fc2.com>
E-mail: t.bamboo.mtc2014@gmail.com

アクテノンに一言 名古屋の、いや愛知の演劇文化はアクテノンと共にあり! これからも芸どころ名古屋の拠点として、演劇文化発展のためにかせないこの施設を維持して行って下さい。リハーサル室最高です!

演劇 劇団ノヴィス



2000年、公共の劇場での演劇ワークショップで演劇に出会う。以降、同ホールにて演劇の活動を行い、2012年に、同ホールの活動とは別に劇団ノヴィスを旗揚げ。

ライフワークとして、演劇に取り組み、一人芝居の稽古として落語もやる。演劇公演のほか、落語会の開催や施設慰問なども行っている。現在、12月の舞台へ向けて絶賛稽古中。

次回公演: 劇団ノヴィス第二回公演『君ヲ泣ク』会場G/pit、12月16日(土)14時~、19時~12月17日(日)11時~、15時~
よろしく願いたします。

- ①2012年 ②3名
- ③『表に出ろいっ!』/碧南市芸術文化ホール('14年) 『劇団ノヴィス 落語会』/仲平座('12年~不定期)
- ④近藤樺陽
HP: <https://www.gekidannovice.com>
E-mail: gekidannovice@yahoo.co.jp

アクテノンに一言 道具を置かせてもらったり、駐車場も完備、続けて利用する場合は部屋の移動があっても早めには開けていただいたり...様々なご配慮、本当にありがたいです。

公演のご案内

★アクテノンの利用団体の公演をご案内します。※詳細は劇団へお尋ね下さい。①会場 ②日時 ③料金 ④問合せ先

OfficeKAN 第三回プロデュース公演 『日本一不味い店』	<ul style="list-style-type: none"> ① 名古屋市昭和文化的小劇場 ② 12月7日(木) 14:00 19:00、8日(金) 14:00 19:00、9日(土) 13:00 17:00、10日(日) 13:00 17:00 ③ 3,000円 (全自由席) ④ officekan2014@yahoo.co.jp ☎090-3939-8214 (渡辺) 昭和の激動を生き抜いてきた老夫婦と家族の物語。「もう少し生きてみるか」「家族っていいものですね」
アトミック☆グース vol.16 『オイラーズサプライズ』	<ul style="list-style-type: none"> ① 名古屋市千種文化小劇場 ② 12月15日(金) 19:30、16日(土) 14:00 19:00、17日(日) 14:00 ③ 2,800円 (当日3,000円) 高校生以下1,000円 (当日1,200円) ④ mother@sb3.so-net.ne.jp (制作・池田) 原点復帰! THEワンシチュエーションコメディー!!
劇団 テアトロ☆マジコ 『エンジェル・イヴ』 ~The Night Before Angels' Rebirth~	<ul style="list-style-type: none"> ① 名古屋市千種文化小劇場 ② 12月22日(金) 14:00 18:30、23日(土) 14:00 18:30、24日(日) 13:00 17:30 ③ 2,800円 (当日3,000円) 中学生以下1,800円 (当日2,000円) ④ ☎090-8130-7823 (劇団 テアトロ☆マジコ) 聖なる夜に怪しい奴らの跳梁跋扈。個性派キャストでお贈りする暖かなクリスマス物語。
劇団 Sturm und Drang 『翠玉(みどり)の記憶』 『Cheers!』	<ul style="list-style-type: none"> ① 名古屋市芸術創造センター ② 1月13日(土) 17:30、14日(日) 13:00 ③ 3,500円 (当日4,000円) ④ ryou_sud@yahoo.co.jp お芝居とショーの二本立てです。宝塚のような華やかな舞台をお届けいたします!



編集発行/平成29年11月25日(年4回)

名古屋市中村区稲葉地町1-4-7

TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632

※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

